

「若者によるまちづくり実践塾」

青葉区中央市民センター

1 事業概要

本事業は、若者が活動を通して、自己のものの見方や考え方を広げ、地域に対する関心を高めることができるよう支援し、将来の地域の担い手として自発的・主体的に行動できる「人づくり」をねらいとしています。令和4年度は、参加者自らが訪問先を選定し、まち歩きや取材を実施。活動を通して得られた情報を、若者視点から見た「青葉区の魅力」として発信していきます。

2 令和4年度の活動

令和4年度は、5月から事業をスタートしました。年度途中で3名の追加登録もあり16名が登録しています。活動テーマを昨年度同様に「若者視点による青葉区の魅力発信」とし、マップ制作に取り組むことにしました。まずはマップの対象となるエリアを絞り込んでいくために、まち歩きを行いました。

【まち歩きの時期と内容（3回）】

青葉区中央市民センターの周辺エリア（6月）

※「まち歩きフォーラム in あおば～まち歩きのカタチ～」に参加。仙台駅方面、国際センター方面、片平方面の3コースにそれぞれ分かれてまち歩きをしました。

木町通市民センター～北鍛冶町～青葉神社前（8月）

※昨年度制作の「奥州街道マップ」を活用してのまち歩き。柏木市民センター富山館長にご案内いただきました。

勾当台公園～定禅寺通～西公園（10月）

3回のまち歩きを踏まえて、参加者同士で検討を重ね、マップの対象エリアを「定禅寺通エリア」に決定しました。現在は、完成に向けて、紙面に取り上げる内容について検討を重ねています。



▲R3成果物
「奥州街道マップ」



一番町まち歩き(6月)



奥州街道まち歩き(8月)



定禅寺通まち歩き(10月)

3 成果と課題

参加者である若者にとって、地域を知り地域について考えるための「きっかけづくり」として、まち歩きが有効だと実感しました。街を歩きながら「ここになぜコレがあるんだろう」「ここは昔どうなっていたんだろう」と抱いた疑問について、参加者が自主的に調べたり、店舗の方に尋ねたりしていました。参加者自身も「視野の広がりを実感」「普段、何気なく歩いていたが、いろいろなものに目がいくようになった」など、自己の変容を感じているようです。

今後の課題として、市民センターに足を運ぶ機会が少ない若い世代に対し、どのようにすれば参加者を継続して確保することができるかということや、制作した成果物をどのように活用していくかということについて検討していく必要があります。



マップ内容の検討

4 今後の展望

事業のねらいである「将来の地域の担い手」を育成していくためには、まずは若い世代に地域に関心を持ってもらうことが大切です。そのためにも、若い世代が事業に参加したくなるような効果的なPRや、参加者が地域について楽しく学ぶことができる仕掛けづくりについて検討していきたいと思えます。